



「あんあん」とは
安心・安全の意味です

松原市役所代表 ☎334-1550

子育て支援課 ☎337-3118

福祉総務課 ☎337-3116

青少年課 ☎337-3134

地域保健課 ☎337-3125

教育推進課 ☎337-3150

市政情報室 ☎337-3129

地域教育振興課 ☎337-3133

虐待 知ってほしい児童虐待のこと

虐待は「家庭」という密室で行われることが多く、実際にその場面を目撃することはあまりありません。しかし、ちょっとした何らかの「サイン」を子どもは出しており、それを見逃さないことが今後の支援のために重要になってきます。

虐待を未然に防ぐためには、地域全体での見守りが大切です。

下記↓のシートを参考に、疑わしいことがありましたら、ぜひ子育て支援課へお知らせください。

●日常的な虐待行為を疑わせる場面や状況は？

- 虐待行為(叩いたり、罵声を浴びせているなど)そのものを目撃した
- 保護者が長時間不在にしており、子どもだけで家にいることがある
- 家の中が不衛生な状況にある

●保護者の様子はどうですか？

- 子育てや子どもに対して拒否的な言動・態度がみられる
- 祖父母、親族との交流がなく、手助けが得られない
- 地域のなかで孤立している状況にある
- 経済的に苦しい状態にある
- 子どもの健康状態に関心が低く、病院に受診しない
- 精神および身体の病気のため、子育てが心身ともに負担となっている

●子どもの様子はどうですか？

- 不自然なあざや傷、火傷がみられる
- 衣服が汚れている、季節はずれの服装をしている
- きょうだいと比べて体格の違いや扱いの差が見受けられる子どもがいる
- 大人の顔色を気にしたり、大人に対して警戒している様子があったりする。また、遅くまで遊んでいて、家に帰りたがらない
- 保育所や学校を欠席していることが多い
- 表情が乏しい。落ち着きがない。乱暴な行動をするなど
- 年齢にそぐわない性的な言動がみられる

子育て支援センター

子育てには不安や悩みはつきものです。話を聞いてほしいけど、近くに相談できる人がいない。そのため、一人で悩みを抱えてイライラしてしまう。子どもにきつくあたってしまう。そんなときは、思い切って誰かに話してみましょ。子育て支援センターでは、そうした悩みの相談を受けています。気軽に相談してください。

●市内に4カ所設置しています(下記参照)

◆育児相談(電話・面接) ◆親子で参加できる親子の会の開催 ◆公園や公民館に出向いての遊びの会の開催

◆子育てに関する講習会の開催 ◆情報紙の発行や地域の情報提供 ◆子育てサークルへの援助

●子育て支援センターのびのび Pあり 第2保育所内

松原市南新町3丁目7番30号

☎・FAX 072-333-6977

●子育て支援センターわくわく Pなし 市民恵我図書館2階

松原市一津屋1丁目10番15号

☎・FAX 072-335-6119

●子育て支援センター・ ともだち広場 清水保育園内 Pなし

松原市南新町5丁目13番4号

☎ 072-335-1050

FAX 072-330-1152

◆利用時間 午前10時～午後4時

◆ホームページ

<http://www.simizu.or.jp>

◆利用日 月～金曜日

◆利用時間 午前9時～午後5時30分

◆松原市役所のホームページ
<http://www.city.matsubara.osaka.jp/>

●地域子育て支援センター ぴい～す KIDS

まつばら駅前おおぞら保育園内 Pなし

松原市上田4丁目3番32号

☎ 072-338-0288

FAX 072-330-6039

◆利用時間 午前9時～午後5時

◆ホームページ

<http://www.shoutokukai.net>

子どもを育てることは楽しいけれど、困ったり悩んだりすることも多いものです。支援センターは育児相談のほか、親子の遊びや交流などを通して子育てのお手伝いを行なっています。

※詳しい事業の内容は、広報まつばらや各ホームページをご覧ください。

事故予防について

●敷布団による窒息

乳児はまず仰向けからうつ伏せに寝返りをはじめます。そしてうつ伏せ姿勢で頭をあげていますが、バランスを崩すと頭がしずみます。寝返りし始めたころの乳児はうつ伏せから仰向けに戻ることが難しく、そのときに下が柔らかいふかふかとした敷布団であると、窒息の原因になります。

乳児の敷布団は固めのものを使用しましょう。



●コインなどの小さいものの誤飲や事故

乳児は手先が使えるようになってつまむと、まず口に持っていきます。なめたり、見ながらまたなめたり、口での感覚を楽しみます。

乳児の口の大きさは最大直径32mmぐらいあり、500円玉ぐらいのものは、乳児の気管につまります。またコンセントの差込口など小さい穴にコインなどはめようとするなど思わぬ行動をとります。感電のおそれも出てきます。

コインや小さいものは乳児の手のとどかないところに置くようにしましょう。



●ポットや炊飯器によるやけどの注意

ポットや炊飯器は、水蒸気もとても熱く、乳児が触るとふたがあくことがありとても危険です。

またテーブルセンターを敷いた上に保管すると、乳児は立つためにテーブルセンターを掴んで下に引っ張ります。それで、上に置いたポットなどが落ちてきてやけどなどけがにつながります。熱を発する電化製品には注意して手の届かないところへ置きましょう。



運動あそび

幼児は、さまざまな遊びを中心に、毎日合計60分以上、楽しく体を動かすことが大切です(文部科学省「幼児期運動指針」より)。

普段は使わない体の部分を意識して動かす体操を紹介します。親子で気軽に楽しく運動してみましょう。(所要時間は10分から15分です。)

お父さん・お母さんへお願い

日ごろ運動不足を感じているお父さんやお母さんは、お子さんと一緒に運動してみましょう。運動を始める前は、十分に準備運動を行いましょう。また、絶対無理はしないでください。無理をすると、お子さんが嫌がってしなくなるなど逆効果になります。そして、上手にできても、できなくても「やったね」「すごいね」とほめてあげてください。

<p>①ピョンピョン跳び (両足をそろえて両足を挙げて跳び前・後ろに進む)</p>	<p>②クマさん歩き (四つん這いになって膝を付かないで前・後ろに進む)</p>	<p>③ペンギンさん歩き (立てひざで前・後ろに進む)</p>
		
<p>④ワニさん歩き (うつ伏せになり足を使わないで、腕だけで前を進む)</p>		<p>⑤おもちゃ転がり (両手を上に挙げてのぼし寝転んだ状態で左右両側に転がる)</p>
		

体力は人間の活動の源であり、健康の維持のほか、意欲や気力といった精神面の充実にも大きくかかわっており、人が生きていくために重要なものである。特に幼児期は、神経機能の発達が著しく、タイミングよく動いたり、力の加減をコントロールしたりするなどの運動を調整する能力が顕著に向上する時期である。この能力は、新しい動きを身に付けるときに重要な働きをする能力であるとともに、周りの状況の的確な判断や予測に基づいて行動する能力を含んでおり、けがや事故を防止することにもつながる。このため、幼児期に運動を調整する能力を高めておくことは、児童期以降の運動機能の基礎を形成するという重要な意味を持っている。

また、日ごろから体を動かすことは、結果として活動し続ける力(持久力)を高めることにもつながる。

参考 文部科学省「幼児期運動指針」より